

評価項目	総評(意見・改善策)
保育目標について	子どもたち一人ひとりと向き合い、信頼関係を大切にしたい保育を行うよう心がけることができた。その中で一人ひとりへの理解を深め、ねらいや目標を明確に持ち、それを保育者間で共有して保育を行うことに関してはまだ足りない部分もある。しかし、保育者間でのコミュニケーションをより意識したり、会議でその話しを深めたりと、改善できた部分もあった。子ども一人ひとりの育ちを大切にしたい保育、今だけではなく先のことまで考えた保育を、ねらいや目標をもとに保育者間で共有して保育を行っていくことを、引き続きの課題として、努力していきたい。
保育について	新型コロナウイルスの影響により、活動を制限せざるを得ない状況が続いた。その中でも、子どもたちが安心してのびのびと過ごせるように、保育者間で話し合いながら保育を行った。集団生活の中で三密を避けることは難しかったが、給食・午睡時はなるべく間隔をあけ、固定の位置にする・戸外活動時、公園に他の園が複数いた場合は散歩に切り替える・登園、降園時の対応をエントランスで1組ずつ行う・換気の徹底(CO2濃度測定器を導入し、数値をこまめにチェックして換気を行う・壁掛け扇風機を3台導入し、空気の流れを作る)等、出来る限りの対応を行った。子ども一人ひとりを尊重し、安心・安定した園生活のもと、主体的に活動できるように寄り添い、援助していきけるような保育を心がけた。
行事について	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、各行事の計画を立てた。特に保護者参加行事については、その都度慎重に議論し、開催の有無を決定した。開催の場合は、人数の制限・規模の縮小・体調把握の徹底(37.5度以上の発熱、又は咳、鼻水等の風邪症状がある場合は参加を控えていただく)・保育室内の消毒作業や換気の徹底・参加する職員の人数を最大限まで減らす等、出来る限りの対応を行った。その上で子どもたちが楽しめる行事(秋まつりを初めて開催した)を、職員一同で知恵を絞って考え、実施した。
分掌・体制	それぞれが自分の役割を意識し、行動するよう心がけていた。しかし、優先順位をつけて行動したり、指示がなくても自ら考えて行動したりすることが難しい場面もあった。そのような時に、保育責任者として指示を出すだけでなく、まずは自分で考えてみるような関わりをすることが必要だと感じた。一人ひとりの力を十分に発揮できるような仕組み作りが引き続きの課題であるとともに、意見を言いやすい環境づくりにも取り組んでいきたい。
運営	運営責任者との職員面談に加え、年3回保育責任者と全職員の個人面談を実施。実務面での具体的な提案や職員が普段不安に感じていることをタイムリー、かつ高い精度で吸い上げるねらい。それによって園内の改善すべき点について、迅速に対応することができるようになった。また、年度末、保育終了後に職員全員が参加し、全体会議を開催。翌年度に向けた人事の発表、園の方向性等の確認、園内研修を行った。翌年度の目標・課題等を明確にすることで職員の意識を統一し、結果保育の質の向上を目指した。
年齢別・クラス運営	クラス会議の見直しを具体的にに行った。月に2回(月初め・月末)会議を行い、月末の会議には、その月の振り返りと次月の目標(クラス全体のこと、個人のこと)を担当中心に話し合った。今後は、内容がより深まっていくこと、それを保育者が共有していくこと、必要な時には月の途中でも見直しを行っていくことが課題である。担任として、クラス運営で困ったことがあった時に、それを発信し、相談・解決していく姿勢を常にもつこと、担任が抱え込まないように、責任者は十分なフォロー体制を整えることも課題である。
保健・安全指導	CO2計測器を導入し、換気すべきタイミングを明確にした。また、玩具の殺菌庫、壁に備え付けの扇風機を導入し、感染防止に取り組んだ。室内の消毒作業は去年に引き続き、こまめに、念入りに行った。今後も新型コロナウイルス感染症の動向をうかがいながら、園でできる感染防止策を考え、実行していきたい。
園内外研究・研修	研修の中止が目立つ中、参加可能な研修には積極的に参加した。職員それぞれが必要な研修をバランスよく受講できるように努めた。また、研修後に研修報告書を作成し、全員が閲覧できるように設置することで情報共有に努めた。9月1日防災の日には避難訓練、防災食での給食提供、さらにお迎え訓練を実施。同日、消防署へ協力を依頼した救急救命研修を実施し、緊急時の対応について職員全員で学ぶ機会とした。
情報について	各帳簿・書類を「保育」「運営」「管理」「給食」等に分け、それぞれナンバリングを行うことで、翌年度への移行をスムーズに行えるような書類整理を行った。また過去の書類についても各分野ごとに区分し、参照しやすい保管方法に改良した。個人情報については施錠ができる保管場所にて安全に保管できるよう保管場所の変更や整理・整頓を行った。
施設・設備	保育室の仕切りとしても使用していた棚を、転倒の心配がなく安全なものに買い替えた。収納も広くなり保育室を広く使えるようになったことで遊びの幅が広がり、かつ安全に保育できるようになった。プレイルームの園庭で水遊びができるように整備を行った。プレイルーム室内に手洗い場を導入した。また農園でじゃがいもの収穫に成功。農園の運営についても改良を重ね、今後農園を活用した保育も視野に入れていきたい。
施設間交流連携	新型コロナウイルス感染症の影響により、他園との交流はほとんどできなかった。いづみ幼稚園所有の畑にて、さつまいも堀り(1、2歳児クラスのみ)・いづみ幼稚園運動会参加(2歳児クラスのみ)については、人数を制限するなどして、開催することができた。今年度より、連携施設への引継ぎ(子どもたちの生活面など)を行い、新しい環境に、よりスムーズに慣れることができるよう配慮した。
家庭・地域との連携	新型コロナウイルス感染症の対策として、登降園時のエントランス対応は継続した。限られた時間の中で、子どもの様子を保護者と共有することができるよう、話す時間を確保できるような人事配置に努めた。個人面談は9月に1度開催、その時には十分な時間を確保して行った。保護者への様々な伝達や連絡手段として、内容等により、電話・書面・メールを使い分けて行った。買い物体験等で行っていた地域との交流は、新型コロナウイルスの影響により、全て中止せざるを得なかった。
情報発信	園便り、給食便りを温かみを感じる手書きに運用変更。書式が自由に変更できるようになったこともあり、これまでより内容の充実した情報を発信できるようになった。感染症対策により、園への出入りを規制せざるを得ない状況で、少しでも園内の様子が伝わるようにブログや写真販売等の充実に努めた。
衛生管理について	一人一人が日々手洗い・掃除・調理室内の点検を行い清潔な状態を保った。CO2測定機を用いることで具体的な数値で判断し換気を行った。異物混入のヒヤリハットをうけ新たに調理帽の下につける髪の毛ネットを取り入れる等具体的な対策を行った。害虫駆除を2か月に1度実施しこまめな点検を行った。熱風乾燥庫、スチコン等調理器具の点検は業者に委託し、安全な状態で使用した。
調理内容について	旬の食材、行事食を取り入れた献立作成を行った。月1度の調理室会議で行事食の盛り付け等を話し合い各自の意見を取り入れて実際に行うことが出来た。切り方・茹で方等子どもの成長に合わせた調理方法の見直しを行ったので来年度から実行していく。献立の振り返りを月に一度行っているのので来年度に反省を生かして献立作成、調理に反映していく。
食育について	新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら食育を実行した。子ども達の情報共有を保育士と行い、クラスに合った食育を行った。らびつと農園の運用を始め、来年度の見直しをもつことができたため反省を生かし、計画的に栽培を行っていく。より子どもの姿にそった食育を行う為、園としての食育の段取り、進め方を保育士と共に見直ししていく。
健康管理について	子ども達の身長・体重を栄養士が毎月確認し、改善が必要な子どもには保護者と相談しながら具体的な配慮を行った。給食の見た目にも配慮し、子ども達が食べやすい献立を意識し必要な栄養量を無理なく摂取できるよう配慮した。連絡帳を読み、家庭での食事状況も把握した上で保護者へのアドバイスをを行った。
事務管理について	一部の書類をナンバリングすることで、年度移行の作業の効率化に成功した。誰が見てもわかりやすい管理方法にすることで、定位置管理を徹底し、何かを探すという余計な作業をなくす運用を目指しました。